店舗付共同住宅建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

藤平田ナカシンギジ遺跡（第4次）

2011

石川県野々市町教育委員会

例　言

1　本書は、藤平田ナカシンギジ遺跡（第4次）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2　遺跡の所在地は、石川県石川郡野々市町藤平田地内である。
3　調査原因は店舗付共同住宅建設に伴うものである。
4　調査は、村一夫氏からの依頼を受けて野々市町教育委員会が実施した。
5　調査にかかる費用は、村一夫氏が負担した。
6　調査は、平成22年度に実施した。遺跡名・面積・期間・調査体制は下記のとおりである。

遺 跡 名　藤平田ナカシンギジ遺跡
面　　積　76㎡
期　　間　平成22年4月13日～平成22年4月16日
調査主体　野々市町教育委員会（教育長　村上維喜）
担 当 課　野々市町教育委員会　文化振興課（課長　山下真弓）
調査担当　永野勝章（野々市町教育委員会文化振興課　主査）
整理・報告書作成作業
担　　当　永野勝章
　　増山明美（野々市町教育委員会　臨時職員）

7　本書についての凡例は下記のとおりである。
(1) 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠している。
(2) 水平基準は海抜高であり、T.P.（東京湾平均海面標高）による。
(3) 出土遺物番号は、遺跡ごとに本文・観察表・挿図・写真で対応する。
(4) 挿図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
8　調査に関する記録と出土遺物は、野々市町教育委員会が一括して保管・管理している。

第1図　調査区位置図（S=1／5000）

第１章　調査の経過

第１節　調査の経過

平成21年12月10日、開発者から野々市町教育委員会（以下、町教育委員会）に対して野々市町藤平田37街区８～12、27～30について店舗付共同住宅を建設するための農地転用予定地の埋蔵文化財について調査依頼があった。町教育委員会では対象地が周知の埋蔵文化財包蔵地内（藤平田ナカシンギジ遺跡）であると回答し、双方の間で協議を行い建設工事によって地下の遺跡に影響の及ぶ建物部分について発掘調査を行うことで合意した。平成22年２月17日開発者より文化財保護法第93条第１項による土木工事等のための発掘届が町教育委員会に提出された。町教育委員会では建設工事によって地下の遺跡に影響の及ぶ範囲については発掘調査を行うとの意見を付して石川県教育委員会（以下、県教育委員会）に進達し、２月26日県教育委員会より発掘調査を実施する旨の通知があった。４月１日、開発者より発掘調査依頼が提出され、４月９日開発者と町教育委員会の間で埋蔵文化財発掘調査の契約が締結された。調査面積は76㎡である。

第２節　発掘作業の経過

４月13日　　重機による掘削開始。
　14～15日　作業員による発掘調査開始。
　16日　　機材搬出。調査終了。

第３節　整理作業・報告書作成

整理作業及び報告書作成は平成23年２・３月に実施した。

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

野々市町は、石川県のほぼ中央に位置する。北東は金沢市、南西は白山市に隣接している。町の規模は東西約4.5km、南北約6.7km、面積は約13.56㎢である。町域は手取川扇状地の扇央部から扇端部に位置し、南東から北西に向かって緩やかに傾斜している。藤平田ナカシンギジ遺跡は野々市町のほぼ中央にあたる藤平田地内に所在する。標高は約28mである。遺跡の周辺はこれまで田畑の広がる田園地帯であったが、平成10年より始まった野々市町中南部土地区画整理事業によって、付近には町役場や商業施設・住宅が建ち並び、景観は大きく変わりつつある。

第２節　歴史的環境

野々市町おける人々の営みは縄文時代に遡る。御経塚遺跡は縄文時代後・晩期の北陸を代表する大集落跡であり、その周辺には金沢市のチカモリ遺跡や中屋遺跡等も所在する。

弥生時代前・中期の集落跡は野々市町ではほとんど確認されていない。しかし後期になると御経塚遺跡・押野タチナカ遺跡など町域北部に位置する御経塚地区と押野地区に大規模な集落跡が現れるほか、高橋川流域の自然堤防上を中心に高橋セボネ遺跡などの小規模な集落跡が分布する。

古墳時代前期に入ると弥生時代後期に比べて集落数は減少するが、町域北部に所在する御経塚シンデン古墳群や二日市イシバチ遺跡では前期の古墳が発見されている。一方これまで扇状地扇端部に比較して開発が低調であった扇央部に立地する町域南部でも７世紀前半代には上林古墳・末松古墳といった後期古墳が築造された。更に７世紀後半には石川県最古の寺院跡である末松廃寺が建立され、扇状地開発が大いに進んだことが明らかになっている。

古代には前時代に引き続き町域南部から中部にかけて上林新庄遺跡群や粟田遺跡・三納アラミヤ遺跡などで集落が展開する。また町域北西部の三日市Ａ遺跡ではこの時期の集落とともに古代北陸道が築造されている。

鎌倉時代に入ると野々市町東部の扇が丘ハワイゴク遺跡や扇が丘ゴショ遺跡では武士の居宅と見られる遺

構が検出されている。室町時代には住吉町から扇が丘にかけては加賀国守護を務めた富樫氏の居館である富樫館跡が築造される。この他粟田遺跡や三納ニシヨサ遺跡・三日市A遺跡・徳用クヤダ遺跡・長池キタノハシ遺跡など町域の広い範囲で集落跡を確認している。

近世では町域内に所在する現在の各集落の原形が形成されていったものと考えられ、御経塚遺跡デト地区や粟田遺跡などでは発掘調査によって近世の遺構・遺物が発見されている。

第3章　調査の成果

第1節　層　序

今次調査における調査区北側の基本的な層序は地表（田面）から耕作土・旧耕作土・床土・灰色粘質土・灰黄色粘質土・暗褐色粘質土となっている。これまでに実施された近隣の発掘調査の成果から耕作土・旧耕作土・床土は近代以降、灰色粘質土・灰黄色粘質土は近世、暗褐色粘質色土は中世と考えられる。

第2節　遺構と遺物

遺　構

今次調査では小穴が確認された。本報告では遺構の切り合うものや土層断面から分層のできた遺構について記述する。

小穴2（第2・3図）

調査区西側に位置する。小穴3を切っている。楕円形で、規模は45×36cm、深さは最深部で22cmを測る。覆土は褐色粘質土である。

小穴3（第2・3図）

調査区西側に位置する。小穴2に切られている。楕円形で、規模は38×50cm以上、深さは6cmを測る。覆土は明褐色粘質土である。

小穴14（第2・3図）

調査区東側に位置する。小穴15を切っている。ほぼ円形で、規模は35×32cm、深さは9cmを測る。覆土は褐色粘質土である。

小穴15（第2・3図）

調査区東側に位置する。小穴14に切られている。歪な楕円形で、規模は70×46cm以上、深さは10cmを測る。覆土は明褐色粘質土である。

小穴17（第2・3図）

調査区中央に位置する。小穴18に切られている。楕円形で、規模は60×44cm、深さは最深部で25cmを測る。覆土は暗褐色粘質土を主とし、下層で濁黄褐色粘質土である。

小穴18（第2・3図）

調査区中央に位置する。小穴17・19を切っている。楕円形で、規模は34×24cm、深さは8cmを測る。覆土は褐色粘質土である。

小穴19（第2・3図）

調査中央に位置する。小穴18に切られている。楕円形で、規模は70×52cm以上、深さは26cmを測る。覆土は暗褐色粘質土を主とする。

小穴20（第2・3図）

調査区中央南側に位置する。小穴3を切っている。平面形は台形に近い円形で、規模は38×36cm、深さは25cmを測る。覆土は暗褐色粘質土を主とする。

遺　物（第4図）

今次調査での出土遺物は6点である。いずれも遺構検出時の出土であり、遺構に伴う遺物は出土していない。以下に図示可能な4点について説明を行う。

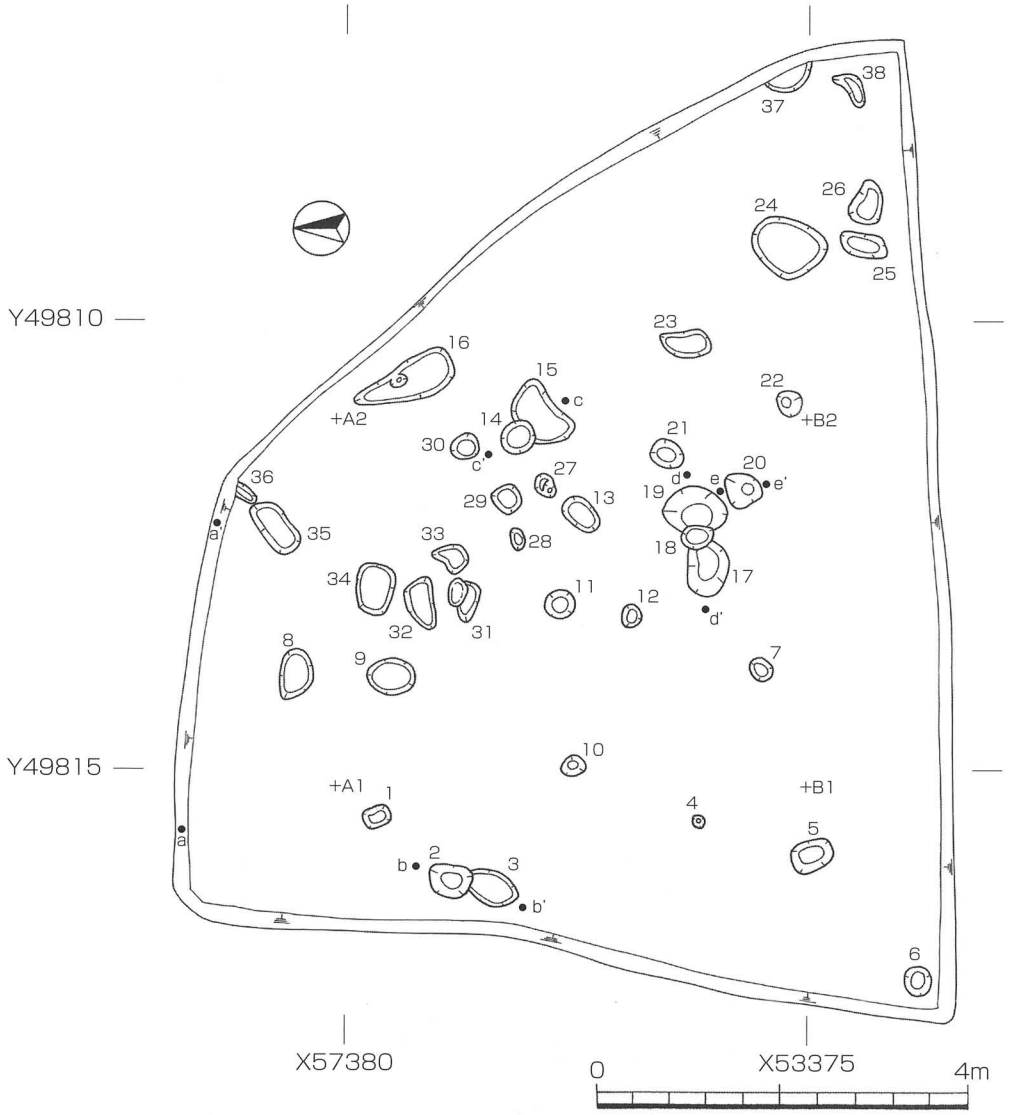
1は中世土師器皿である。口径62mm、器高13mm、平底で胎土は橙色、遺存率は1/5である。口縁部に

煤が付着しており、灯明皿として使用されたものである。2は白磁の小杯である。口径70mm、胎土は灰白色、遺存率は1/5である。13世紀と思われる。3は肥前陶器碗である。口径は118mm、胎土は青黒色、遺存率は1/12である。外面にコンニャク印判の模様がある。時期は18世紀である。4は産地不明の近世陶器擂鉢である。小片のため口径は分からない。胎土は橙色である。内面に少なくとも6本の卸目が確認できる。

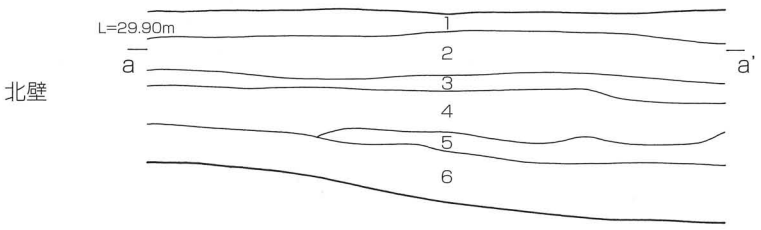
第4章　総　　括

今次調査区は藤平田ナカシンギジ遺跡の北端に位置する。調査区の地形は南から北に向かって低く傾斜している。調査では小穴を調査区全域から確認した。遺構からの出土遺物がないため詳細は不明だが、遺構覆土の土色から中世のものと思われ、平成15・16年度に実施した発掘調査によって本遺跡が中世を主体とする集落遺跡であることが判明しており、今次調査区についても中世集落の一部と思われる。

・参考文献
野々市町教育委員会　2007　『三納ニシヨサ遺跡（第1・2・4・6・7次調査　三納アラミヤ遺跡（第3次調査）
藤平田 ナカシンギジ遺跡（第1～3次調査）』

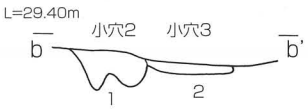


第2図　藤平田ナカンギジ遺跡（第4次調査）遺構図（1/80）



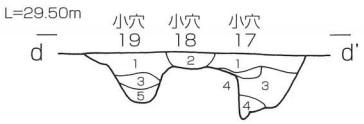
調査区北壁断面

1. 耕土
2. 旧耕土
3. 床土
4. 灰色粘質土
5. 灰黄色粘質土
6. 暗褐色粘質土



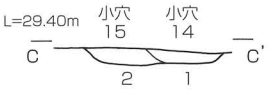
1. 褐色粘質土
2. 明褐色粘質土

小穴2、3



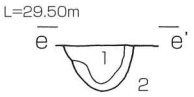
1. 暗褐色粘質土
2. 褐色粘質土
3. 1に黄色土混じる
4. 濁黄褐色粘質土
5. 黒褐色粘質土

小穴17・18・19



1. 褐色粘質土
2. 明褐色粘質土

小穴14・15

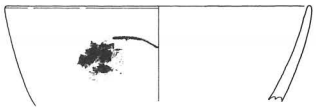


1. 暗褐色粘質土
2. 褐色粘質土

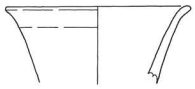
小穴20

第3図　遺構実測図（1/40）

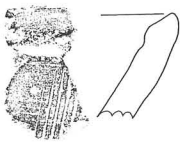
1



3



2



4

第4図　遺物実測図（1/3）

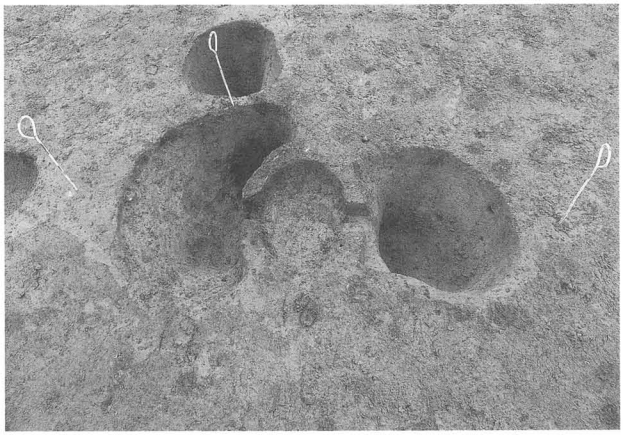
調査風景

完　掘

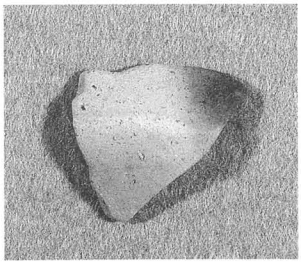
調査区北壁断面

小穴2、3

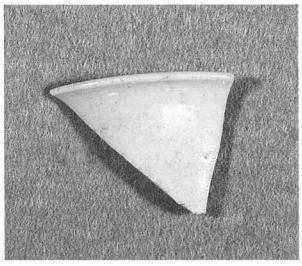
小穴14、15



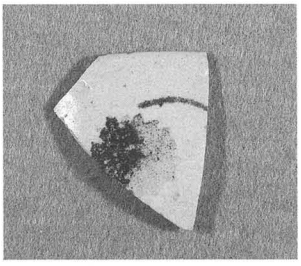
小穴17、18、19



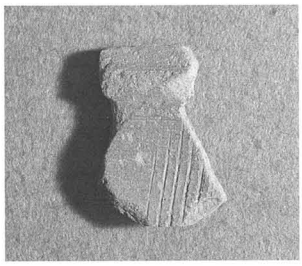
1



2



3



4

報告書抄録

ふりがな	とへいだなかしんぎじいせき
書名	藤平田ナカシンギジ遺跡
副書名	店舗付共同住宅建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	永野　勝章
編集機関	野々市町教育委員会
所在地	〒921-8510　石川県石川郡野々市町字三納18街区1　TEL：076-227-6122
発行機関	野々市町教育委員会
発行年月日	西暦2011年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査機関	調査面積㎡	調査原因
藤平田 ナカシンギジ遺跡	野々市町 藤平田	17344		36° 31′ 15″	136° 36′ 10″	20100413 ～ 20100416	76㎡	記録 保存 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
藤平田 ナカシンギジ遺跡	集落跡	中世	小穴	土師器、中近世陶磁器	

要約	今次調査区は藤平田ナカシンギジ遺跡の北端に位置する。調査区からは中世の小穴を確認した。これまでの発掘調査によって本遺跡は中世の集落遺跡であることが分かっており、今次調査区についてもその一部と思われる。

店舗付共同住宅建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

藤平田ナカシンギジ遺跡

発行日　平成23年3月31日
発行者　野々市町教育委員会
〒921-8510
石川県石川郡野々市町字三納18街区1
電話　076-227-6122
印　刷　㈲アサヒヤ印刷